

⑩白蛇川沿いかエデ類

●計画目標

計画目標	目標植生	整備影響の 対応区分
<ul style="list-style-type: none"> ・上下流との連続性に配慮する。 ・イロハモミジを主体にし、紅葉樹を混植する。 	かエデ類	適宜整備

●整備のための評価指標

- ・新緑や紅葉が美しく見える様に、健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・新緑や紅葉の景観に支障となる樹木がないこと。
- ・イロハモミジやケヤキなどによって、多彩な色合いの紅葉の景ができていていること。
- ・春日野園地からの大仏殿への眺望（眺望E）を阻害しないこと

●整備方針

- ・ケヤキやエノキ、イロハモミジなどの紅葉樹の補植を行う。
- ・ナンキンハゼを伐採する。



川沿いのイロハモミジ



隣接地のイロハモミジ

⑪春日野園地

●計画目標

計画目標	目標植生	整備影響の対応区分
<ul style="list-style-type: none"> ・拡がりのある芝地の外周にサクラ類を配植し、眺望と一体的となる景観を形成する。 ・サクラ類はソメイヨシノやヤマザクラなど4月上旬に開花する樹種・品種とする。 ・土壌改善により、サクラ類の健全な生育を図る。 	サクラ類 +芝地	適宜整備

●整備のための評価指標

- ・サクラ類が健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・眺望景観に映える芝地と見応えのあるサクラの開花が楽しめること。
- ・南大門、大仏殿、若草山などへの眺望が十分に楽しめること。
- ・⑫公園館北と一体となって、「広大な眺望景観の中に何層ものサクラを重ねて、奥行き感のある景」ができていていること。

●整備方針

- ・ナンキンハゼや眺望を阻害するスギ、クスノキなどを択伐する。(※大仏殿への眺望確保のためには鏡池東のスギ並木の植栽管理と連携する必要がある。)
- ・土壌改善を行い、サクラ類の生育を改善する。
- ・サクラ類は4月上旬に開花する樹種・品種に植替える。



生育の悪いサクラ類



大仏殿への眺望を阻害するスギ



⑫公園館北との一体性を遮るナンキンハゼ●とクスノキ●

●目標景観（眺望景観E）



現在の景観



目標景観



現在の景観 サクラ開花時 (2014年3月31日撮影)



目標景観 サクラの開花時 ※背景は夏の景観

⑫公園館北

●計画目標

計画目標	目標植生	整備影響の 対応区分
<ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークとなるイチョウを保全・継承する。 ・サクラ見本園として多様な樹種、品種を配植する。 	クロマツ疎林 +花木+芝地	適宜整備

●整備のための評価指標

- ・⑩春日野園地と一体となって「広大な眺望景観の中に何層ものサクラを重ねて、奥行き感のある景」ができていていること
- ・⑩春日野園地と連続して芝地景観を形成していること。
- ・サクラ類の見本園として、観賞できること。

●整備方針

- ・⑩春日野園地にあわせて、4月上旬に開花するサクラ類を補植する。
- ・サクラ類の見本園としてサクラ類の補植を行う。



ランドマークとなるイチョウ



多様な品種のサクラ

⑬公園館南

●計画目標

計画目標	目標植生	整備影響の 対応区分
・若草山への導入部としてサクラ類と芝地で構成する。 ・サクラ類は、ナラノヤエザクラ、ナラノココノエザクラを保全・継承する。	クロマツ疎林 +花木+芝地	適宜整備

●整備のための評価指標

- ・サクラ（ナラノヤエザクラ、ナラノココノエザクラ）と芝地の景観を形成していること
- ・周辺植栽と調和していること。

●整備方針

- ・点在する仕立物のマツ類の配植を再検討する。



園路の両側にサクラ（ナラノヤエザクラ、ナラノココノエザクラ）が並ぶ

⑭新公会堂エントランス・⑮新公会堂前庭園

●計画目標

計画目標	目標植生	整備影響の 対応区分
<ul style="list-style-type: none"> ・新公会堂へのアプローチの演出に配慮する。 ・サルスベリの植替や再配置を行い、調和のとれた植栽景観とする。 ・仕立物のマツは周辺植栽との調和に配慮し、仕立て方や配植を見直す ・隣接する新公会堂庭園との一体性・連続性に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ ・サルスベリ ・サルスベリ ・庭園植栽 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先的に整備 ・慎重に整備 ・適宜整備

●整備のための評価指標

- ・サルスベリが、健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・クロマツとサルスベリが、新公会堂や背山の植栽と調和していること。
- ・新公会堂のアプローチとしての演出が適切であること。

(現状の課題)

- ・サルスベリは病害樹木が多く、樹形が極端に崩れている。
- ・サルスベリの密度が高すぎるため不自然である。
- ・サルスベリの配植範囲が広範すぎるため、植栽の演出効果が損なわれている。
- ・仕立物のマツ類と自然樹形のマツが景観の中に混在し、不自然である。
- ・仕立物のマツ類の配植に庭園的な演出が感じられない。

●整備方針

- ・サルスベリは、植え替えを前提として、アプローチの演出効果の高い箇所限定して配植し、自然風樹形で仕立てる。
- ・仕立物のマツ類は、周辺の自然樹形のマツと調和する「野木仕立て」に転換し、植栽密度を下げの方針で、配植を見直す。
- ・仕立物のマツ類の配植の見直しにあたっては、隣接する新公会堂の庭園への移植を検討する。



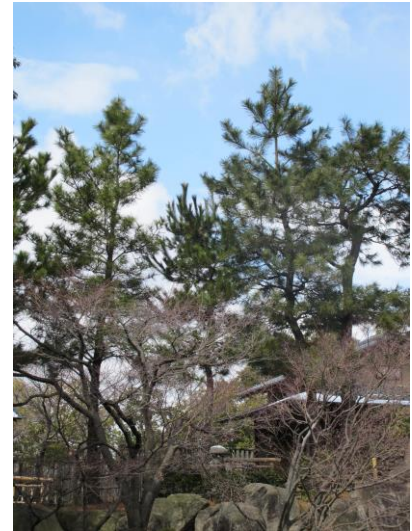
樹形の崩れたサルスベリ



自然風樹形のサルスベリ（京都府立植物園）



仕立物のマツ類



野木仕立のマツ類(育成過程・徳川園)



新公会堂のアプローチ景観：周辺のマツ類は自然樹形